

第6回エリア・データ連携基盤 技術セミナー

# セミナーでの質疑応答

2024年11月

一般社団法人データ社会推進協議会



**質問** データ連携基盤の検討を進めるにあたり、最初に何を始めればよいでしょうか？

**回答** 一つの分野に絞り、実現したい機能、もしくは提供可能な機能/データを検討することが効果的と考えています。たとえば、交通や防災などの分野を選び、その分野で頻繁に利用されるデータや繰り返し使われる機能を特定します。機能提供と比較すると、データ提供は比較的容易であるため、オープンデータの利活用促進活動はデータ連携基盤の実現に向けた初めの一歩として踏み出しやすいテーマであると考えています。

**質問** データ連携基盤の利用状況を確認・把握するにはどうすればよいですか？

**回答** 都市OSなどのシステムでは、ユーザーのリクエストがAPIゲートウェイに集中する構造が一般的です。このため、APIゲートウェイに備わるアクセスログ収集機能を活用することで、利用状況を把握できます。標準の機能を有効化するか、一般的なAPIゲートウェイサービスのログ収集機能を設定することで、利用データを集計・分析し、基盤の利用状況を可視化することが可能です。

**質問** 開発したサービスを利用者に届けるためには、どのようなアプローチが必要でしょうか？

**回答** サービスを利用してもらうためには、まずAPIの使い方を分かりやすく示すドキュメントを作成し、それを共有することが重要です。一般的には、オープンAPIスペシフィケーションに準拠した設計書を作成し、APIカタログとして関係者や一般開発者に公開します。これにより、企業や市民、開発者がサービスを利用しやすくなる環境を整え、利用促進につなげることができます。

**質問** 防災×ヘルスケアの具体例があれば知りたいです。どんなサービスが想定されますか？

**回答** 具体的な実績事例ではないですが、例えば、防災に関しては警報を発するような非パーソナルなサービスの事例を、以前に紹介しています。そこにヘルスケアのようなパーソナルデータが関わると、アイデアとして以下のようなケースが考えられます。

### アイデア1

- 病気をお持ちの方が避難所に避難する場合、必要な薬や物資を最適な形で届ける必要がある。その際、誰がどんな状態で避難所にいるのか、そして何が必要かという情報を把握するに、ヘルスケアサービスで収集したパーソナルデータと連携することで、個人の状況を踏まえた物資の最適化ができる。

### アイデア2

- 車椅子の方や要支援者を避難させる計画を立てる際にも、ヘルスケアサービスで登録しているパーソナルデータを活用することで、個人に合わせた計画を行うといったサービス高度化ができる。

# パーソナルデータ連携モジュールの紹介とデータ連携基盤検討における要点

**質問** データ管理方式について、『両方に対応できる』と説明がありましたが、詳しく教えてください。

**回答** パーソナルデータ連携モジュールは、データ蓄積方式とデータ分散方式の2つの方式に対応しています。地域やプロジェクトの要件に合わせて、適切な方式を採用ください。

## ■ データ管理方式の説明:

データ蓄積方式(集中型)	データ分散方式(分散型)
<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービス提供組織が収集したデータのうち、共有や連携が必要な情報だけをデータ連携基盤に蓄積します。</li> <li>必要最低限のデータが保存され、データ共有の中心的役割を果たします。</li> <li>内部で組織ごとに領域を分けることで、データの状態を組織ごとに把握できます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各組織のデータベースに直接アクセスし、データを取得する仕組みです。</li> <li>データ連携基盤に体温などの収集したパーソナルデータそのもの実際のデータは保存せず、個人IDや各サービス提供組織とデータを紐付ける情報のみを保持します。</li> </ul>

各方式のイメージはスマートシティリファレンスアーキテクチャ「[図 7.1-5 データ蓄積方式とデータ分散方式によるデータ連携](#)」を参照

## ■ モジュールの柔軟性:

- ◆ 必要に応じてデータ分散方式を採用し、各サービスのデータベースに直接アクセスする設計も可能です。
- ◆ パーソナルデータ連携モジュールで分散型を実現するには、外部蓄積機能を使用します。

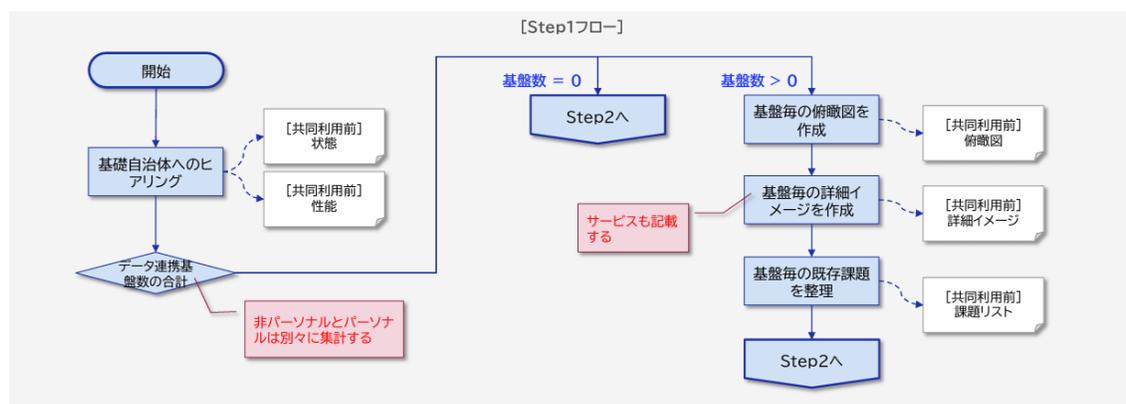
**質問** 「共同利用」というキーワードがありました。市区町村や都道府県における取り組み方について、教えていただけますか？

**回答** デジタル庁で公開している「データ連携基盤の共同利用ガイドブック」に整理する手順が詳細に記載されています。

[データ連携基盤の共同利用ガイドブック\\_本編](#) P.27

## 3.5. 属性(状態・性能)の定義の活用

- ◆ ここまでに示した属性(状態・性能)の定義については、都道府県下に既存のデータ連携基盤とサービスがあるかを調査する際に活用する。また、既存のデータ連携基盤とサービスがある場合には、その性格を、ここでの属性(状態・性能)の定義に従って整理することが望ましい。
- ◆ 都道府県下の基礎自治体へのヒアリングが必要となるため、3.1にあるStep1の作業は、この整理学を用いながら、都道府県が主導してすすめることが望ましい。その上で、どのような共同利用の型に進んでいくかを議論するStep2に進んでいくことを想定している。
- ◆ この活用の詳細については、Appendixを参照されたい。



都道府県が中心となり、基礎自治体へヒアリングを行っていただくことが望ましいです。基盤がある場合は、基盤のアーキテクチャを俯瞰図で整理。その後、課題をリスト化し、詳細な設計に進みます。

課題リストを作成する際、ガイドブックのAppendixも参考にしてください。

[データ連携基盤の共同利用ガイドブック\\_Appendix](#)

### ■ 今後の設計と共同利用の方向性

- ◆ データ連携基盤を設計する際には、現在の状況だけでなく、将来的にどのようなサービスを展開するのかを含めた検討が重要です。
- ◆ 都道府県や市区町村内で提供可能なサービスのビジョンを織り込んだ上で設計を行い、共同利用の形を具体化していくことが望ましいと考えています。

